

年 月 日 /

学校 年 組 番 なまえ



県内では今夏、厳しい暑さが続き、街中では日傘を差したり汗を拭いたりする人が見られた。7月22日、水戸市南町、吉田雅宏撮影

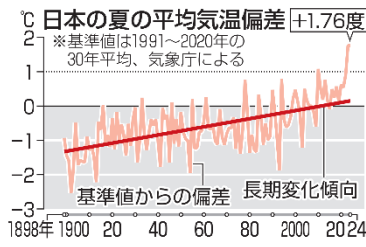
## 今年比1.99度上回る

県内は今夏(6～8月)、記録的な暑さが続き、筑西やつくば、龍ヶ崎など県内6地点で、最高気温が35度以上となる猛暑日の日数が過去最多となった。筑西市は24日、つくば市は20日であった。最高気温は6月に大子町で今年初めて35度を超え、7月には古河市で県内の観測史上初めて40.0度を記録した。

# 県内6地点猛暑日最多

## 6～8月筑西やつくば、龍ヶ崎

気象庁のアメダス観測データ解析によると、今夏の県内平均気温は平年を1.99度上回った。



日本の夏の平均気温偏差 +1.76度  
※基準値は1991～2020年の30年平均、気象庁による  
基準値からの偏差 長期変化傾向  
1898年 1900 20 40 60 80 2000 2024

## 2年連続、最も暑い夏

気象庁によると、平均気温は8月中旬までは昨年を上回るような状況だった。下旬は台風10号や湿った空気の流れ込みで広範囲に雨雲がかかった日が多かったため、タイ記録になったとみられる。

気象庁は2日、今年夏(6～8月)の日本の平均気温が平年を1.76度上回ったと発表した。1898年の統計開始以降で最高だった昨年に並び、2年連続で最も暑い夏となった。高温傾向は9月も続く見通しで、引き続きクーラーの適切な使用など対策が必要な状況となりそうだ。また6～8月、全国914の観測点のうち144地点で最高気温が観

測史上最高に並ぶか更新した日があった。7月29日には栃木県佐野市で観測史上3位タイとなる41.0度を記録するなど、40度以上も相次いだ。最高気温が35度以上の猛暑日は延べ8821回で、これまで最多だった2023年の6692回を更新。気象庁は有識者でつくる異常気象分析検討会を開いて今夏の暑さを分析。記者会見で、会長の中村尚東京大教授は「異常気象と呼んで差し支えない」と述べた上で、太平洋高気圧が日本付近に強く張り出したことや、日本近海の海面水温の高さ、地球温暖化の影響などを要因として挙げた。

た。北茨城市では7月31日、同月の観測史上最高となる35.3度を記録した。県内で6～8月の92日間猛暑日の日数が過去最多となったのは筑西市やつくば市のほか、龍ヶ崎市(18日)、鹿嶋市(12日)、下妻市(11日)、北茨城市(2日)の計6市。最も多かったのは古河市で28日だった。

今夏の猛暑について、茨城大基礎自然科学野の若月泰孝准教授は「昨年と同程度

度の高温の夏」と指摘。猛暑の要因については「地球温暖化だけで説明することは困難」と語り、日本周辺を太平洋高気圧が長期間覆ったことに加え、「黒潮が北側へ蛇行したことが影響している」と推測した。黒潮蛇行は北日本から東日本の太平洋側で昨年から見られる現象。暖流が広がって海面水温が上昇すると海風も暖かくなり、本来は海風で涼しくなる太平洋側の地域でも、高い気温が続いたと指摘した。

2024年9月3日付  
(共同通信社配信記事を含む)

以降も平年より高い気温となる可能性が高いとして、引き続き熱中症や天候の急変などに警戒を呼びかけている。  
(打田有沙)

【問1】今夏(6～8月)県内で35度以上の猛暑日が最も多かった市町村は？

古河市で28日

【問2】県内の平均気温を全国の平均気温と比べてみると？

0.23度高い。(県内1.99度・全国1.76度)

【問3】2024年の日本の夏の平均気温は、1900年に比べ、どのくらい上昇している？

約2.76度。(基準値から1900年は-1度、2024年は+1.76度)



よ読めない文字は、かざくや、ともだちにきいてみてね